



增鏡貳

增
775
85



4
775
83

第五 ころりのついで



い 由居の御父をいへば小元家元は分ち大佐 実名
おまへと共れ又及候乃お母をたすけりて見
ゆへおまへありて源氏の中将よりゆきま
ひゆひりい山のやよりよせりまはゆき
いままをその名とは西園寺といふありひの取
位三位にけがれ給なりとてありしよ玉松とてこ
いふ唐よりゆきひらかりよは回らけおとれ
かくておまへはゆきお中りゆきなりとてありしよ
うねりゆきゆきとてえびおそのお津らりお山
乃れこすまゆきあるゆきゆきゆきゆきゆきゆき



海とたぐ(岩)よりあつたすたのむきもまに滅
もたらぬ一ぬづくふもせりるるる海あり本
堂は西園寺のんごむらぬ来海に妙の御
ぐい生もかかやとつくるあつたれは
又せんみぬく流る茶所切流院の地流なる川
ねる池のなつりよあつたんさう流れそまは
不動寺のね不動を流る園より生力の王にれり
うらしそまのりこまのめとまのりこま
このころは癸亥より忽と廿二年より一夜の
とごうけさまの海にのうのいふ大業成就心
流るのふは愛深王の海にぬひのうとこる

さう僧僧も紅梅のなけさまのりこまのりこま
まのりこまのりこまのりこまのりこまのりこま
さう来運のりこまのりこまのりこまのりこま
せん一終る御流るるも御ありかろせん
そねるはさみ流るるも御ありかろせん
ゆりか海にのりこまのりこまのりこまのりこま
さう流るるも御ありかろせん
山さうのりこまのりこまのりこまのりこま
さうのりこまのりこまのりこまのりこま
さうのりこまのりこまのりこまのりこまのりこま
さうのりこまのりこまのりこまのりこまのりこま

かんちちめおんくわいふ法をひきおこしハハ
よもいふびかり川大納言龍田子れらりこの大納
言切はりみごと大納言龍田子れらりこの大納
ゆきの宰相中おあごまぐく一門の人くむら
よそおこしおわくかうらんは法をひきおこし
うちれおん講もまじりみまより友上人を油
てうひあしひまみりおれおれおれおれおれ
物よふ勢乃日ありまじり油とてけり梅あま
ぢりまやゆりなふ油よふかふ大御けごまの
おりゆもおとれあをせおれおれおれおれ
西んごれおれおれおれおれおれおれおれおれ

あしひくつゆり一六八日ありれきいせうかうみまの
日よて又人くくつゆり一してまのりゆふ九日
よは法性寺の浄光明院よて善賢寺後のゆきおら
の法事ありこのゆきおらごんゆきおらごんゆき
おらごんゆきおらごんゆきおらごんゆきおら
かこもこのゆきおらごんゆきおらごんゆき
そおらごんゆきおらごんゆきおらごんゆき
ゆきおらごんゆきおらごんゆきおらごんゆき
ららゆきおらごんゆきおらごんゆきおらごんゆき
ゆきのりよらゆきおらごんゆきおらごんゆき
七佛薬師おんれいおらごんゆきおらごんゆき

春日れ^う局^ぐ一^りつ^つつ^つて^て此^こ馬^ま交^まり^り津^つ井^いか^かめ^め
ま^まつ^つつ^つ内^{ない}は^は史^し家^かご^ごう^う小^こう^う文^{ぶん}二^に和^わあり^り一^一ま
せ^せど^どい^い由^ゆ事^じと^とま^まら^らせ^せる^るは^はさ^さら^らと^と指^さけ^ける^るは^はさ^さら^ら
ぬ^ぬれ^れど^どな^なり^りな^なる^るは^はさ^さら^らと^と指^さけ^ける^るは^はさ^さら^ら
一^一女^にの^の子^この^のあ^あら^らと^とま^まら^らせ^せる^るは^はさ^さら^ら
て^てお^おり^りの^のさ^さら^らと^とま^まら^らせ^せる^るは^はさ^さら^ら
乃^のち^ちの^のく^くせ^せる^るは^はさ^さら^らと^とま^まら^らせ^せる^るは^はさ^さら^ら
も^もい^いつ^つつ^つ一^一福^ふん^んと^と縁^{えん}ふ^ふま^まむ^むつ^つと^とれ^れら^らと^とは^はさ^さら^ら
す^すで^でお^おり^りの^のさ^さら^らと^とま^まら^らせ^せる^るは^はさ^さら^ら
誕^{たん}生^{しょう}と^とや^やと^とい^いつ^つつ^つの^のさ^さら^らと^とま^まら^らせ^せる^るは^はさ^さら^ら
の^のつ^つら^らの^のあ^あけ^けと^とい^いつ^つつ^つの^のさ^さら^らと^とま^まら^らせ^せる^るは^はさ^さら^ら

う^うの^のさ^さら^らと^とま^まら^らせ^せる^るは^はさ^さら^ら
ま^まの^のさ^さら^らと^とま^まら^らせ^せる^るは^はさ^さら^ら
あ^あの^のど^ど公^{こう}相^{さう}公^{こう}基^き實^{じつ}雄^{ゆう}大^{だい}納^{なつ}言^{げん}三^{さん}人^{にん}控^{くわう}太^{たい}夫^{ふう}實^{じつ}友^{ゆう}大^{だい}友^{ゆう}
中^{ちゆう}納^{なつ}言^{げん}公^{こう}持^ぢられ^れは^はさ^さら^らと^とま^まら^らせ^せる^るは^はさ^さら^ら
ら^らの^のさ^さら^らと^とま^まら^らせ^せる^るは^はさ^さら^ら
法^{ほふ}師^しの^のさ^さら^らと^とま^まら^らせ^せる^るは^はさ^さら^ら
そ^その^のさ^さら^らと^とま^まら^らせ^せる^るは^はさ^さら^ら
と^とま^まら^らせ^せる^るは^はさ^さら^ら
ま^まの^のさ^さら^らと^とま^まら^らせ^せる^るは^はさ^さら^ら
ま^まの^のさ^さら^らと^とま^まら^らせ^せる^るは^はさ^さら^ら
の^のさ^さら^らと^とま^まら^らせ^せる^るは^はさ^さら^ら

修不字流のさだの傳正と云基の大納言房は法親
王を授ちま公持うづき修不馬いとのしくかん坊よと
これたり又の日月次のまつりまをていひま
ふ初使澄郎のりき十二日之夜のぎに本家の出さ
しうていあててこやそ此程の事あまをば
うちみ位十人六位十人かうびるあまのちをせ光兼
綱は在安の程ゆけきと大外託をの光命と志ん
てんのふんおりのをよきりて孝理の天子は章
とぞよむそのかんありあをのふきあうひ終ふ
この出遊をそくみかまうぞくはらふかれは松友
ぎしたるいおまうととてくゆる後あんでんのこれ

むぐれまふあつと神くらともをうづきあ志終
あ乃ぬやくれびやうぬととらうとあんらめ
よりすあきとさやうよりあきとらふ公卿
人く二約もはさあまのりやごり右大将のち
就公基実雄ゆと大納言中納言よた信門緒の授ち
文あ公持ゆは宰相すあ別當就左大臣宰相は
新宰相のちを清徳のち新宰相中納言あどつと
まうりその府のそあまのちとらり乃きみ小教上
人中將実重朝臣とてて教あひまういさの
御前の物も教上の位もらふち御ふれはどの案
二とくけくくのるふれたるあうりけ二とら

そのまゝのついでに中はははの...
しやあれたらくは...
ごとうの...
ふ春宮...
り...
又の入道...
足跡...
あふく...
く戸...
あふ...
りぞ...

実雄まこと公相きんさけの基もとあふ大納言おほののりごん...
家の事...
おせ...
右兵衛...
か...
はり...
おこ...
なれ...
部...
を...
は...

関白のそのは此ののみあをこし傳しておのり
右大臣の殿に大將の心とてくまのりおふ時
ありて大弼周梨二品法親王道深ありて
なまふお多流のみかまのりよりかん
あめつてたくとくまのりよりいづる
中納言の
二條の中納言の法親の家相すけ
友幸おのりた
中將の殿に大弼の心とてくまのりより
受
者もみまのりよりおのりより
うて地流の殿に大弼の心とてくまのりより
あめつてたくとくまのりよりいづる
中納言の

これとては
大將殿を
しきめ
そまはら
ふ
法親
法布
この
てま
よ
寛喜

すうかふはひのまむしつは車おふとくひこの
やうよこかおら好の車一まじりしむおひこまら
けあまあきいありきああり院りうり
あ乃屋一海まらうてうせ給ひくむりあうま
かこせれ人あつたかくはうまおひまらま
とはひもあうを成つて一はふも一せりはらと
あが一ぞうれしくあかひ一まらりまらせ給ふを
一はういあまらあきり一あうでんよああきせ給
ひ一まらふ
い一水あうく積きあひ一いあひ
あひひつりまじりまじりて海うれ

實^{わうごう}治乃ふり神を月女日あまりあり一もや紅葉^{もみぢ}
のりむしよ字^じ治よもあま一なまよ上達部殿と
人おのむし一ころくれかつてあまもみりれ見
うまあまものまらあまのまらてせまあま
きまらまはく一あまら一まらんあつたりあま
人の舟^{ふね}よ樂^{がく}家とまらけまらまらなかり小舟^{こふね}
のあひり一あてあは給も吹まらうるあま水の
うこもらなまねてう海まらあまらふたり
あらうかまらうら地まぐれてまら山風あま
由一まらまら紫まらうり一あまらあまら
はひひまらまら一あまらあまらまら

していづるのくさめもあはれはかりはるる
くされきり上達^{えんちか}のりたぬよ人おとほまはれり
あてすまこのまらぬあどつらうきすまを
ふくまうらませきりはるあれまのこた人く
りゆいしあまき笑えうらむのこいぞう太
政大臣きひら

宇ぶや又いふふとあを契りしん

ひらふゆりすみらうの松

りても流のま一のゆきと右中^{うちう}年^{とし}れむひのり
あゆの女^めは糸乃流^{いと}は無^む清^{せい}用^{よう}侍^しとそまひ
が^が叙^{ぎょ}重^{じゆう}は川^{がわ}とそまうらまのれととまのむら

むすのり^{せうら}節^{ふし}會^{あひ}流^{りゅう}河^がのまうりあふふまはる事^{こと}を
女房^{にようぼう}のゆひをそくはうんたれはまはる^まと^と真^ま
中^{ちゆう}流^{りゅう}むてあまうらむらき^ま筋^{すぢ}か^かはら^らせ^せてあ
まはるまはるのり^りは^はら^らむら^むら^らも^もま^まら^らと^とま^まら^らお^おむ^むす^す入^い
道^{みち}大^{だい}き^きに^にた^たれ^れは^はひ^ひと^とめ^め大^{だい}納^{なつ}言^{ごん}之^の位^ゐ教^{けう}と^との^のふ^ふと^と実^{じつ}白^{はく}
よなまは^{あや}採^{さい}察^{さつ}の^の曲^{きよく}侍^しあり^りむ^むれ^れ女^め大^{だい}納^{なつ}言^{ごん}實^{じつ}侍^し中^{ちゆう}納^{なつ}
言^{ごん}曲^{きよく}侍^し内^{ない}侍^し弁^{べん}内^{ない}侍^しか^か侍^しか^かい^いと^とま^まら^られ^れ人^{ひと}く
皆^{みな}男^{おとこ}は^はら^らま^まあ^あて^てそ^その^のな^なく^くと^とは^はら^らむ^むい^いか^から^らむ
み^みと^とま^まら^らむ^むあ^あら^らも^もお^おう^う中^{ちゆう}納^{なつ}言^{ごん}の^のま^まけ^けと^と権^{けん}
大^{だい}納^{なつ}言^{ごん}實^{じつ}侍^しの^のま^まあ^あら^らむ^むい^いか^から^らむ^むと^とま^ま
は^はら^らむ^むあ^あら^らむ^むと^とま^まら^らむ^むい^いか^から^らむ^むと^とま^ま

いづれにせよ世終ふ舟内侍のしるし
花はかりのしるしをうせまふ
津乃おれあゝの下祿のしるし
おゝよあをまじりてみるれをなる

色
に乃ふのあゝしるしを
ふもはるしるしを

舟内侍よりしるしのたぐを
くよあをまじりてみるれをなる
あれはしるしを
云親乃をまじりてみるれをなるより

いづれにせよ世終ふ舟内侍のしるし
花はかりのしるしをうせまふ
津乃おれあゝの下祿のしるし
おゝよあをまじりてみるれをなる
色
に乃ふのあゝしるしを
ふもはるしるしを
舟内侍よりしるしのたぐを
くよあをまじりてみるれをなる
あれはしるしを
云親乃をまじりてみるれをなるより

よむりひる〜笑ひぬづりばふいとあきて
はしゆ〜定ねり候はるわたり結ふと准度よんごらうつく
し〜とまつ〜せ給ふ由ふを紹しやうのうち八四方
かぶらうちまうらうら〜あ〜い〜れいりあぶき
うにめくき〜ま〜のめあきと准度とまうり
流ふ大き程も二日かゝるはあ〜ひ給ふんら
め〜きんま〜あ女三日又出せうそま〜つりゆつうむ
頭くわう中将通世よあ〜もあかせ給ふ忽とつとびあ〜このと
きこゆふと太政大臣おんせいだいじんのり押〜とらねるもの法
せうとまうか〜穉ちやく念流ねんりゆうと〜りゆ子と〜れと
めぞた〜ふあせ給ひ〜よまうらう〜のゆあのと

〜とあを〜

胡日こにちけあふよりとあ〜とあ〜とあ

〜とあ〜とあ〜とあ〜とあ

沖おき〜とあ〜とあ〜とあ〜とあ

物日ものひ教あ〜とあ〜とあ〜とあ〜とあ

物ものすあ〜とあ〜とあ〜とあ〜とあ

あはれ〜とあ〜とあ〜とあ〜とあ
めそ肉にくのう〜とあ〜とあ〜とあ〜とあ
岡おか白しろ教くわう者もの大だい臣しん院いん因いん大だい臣しん院いん宗そう大だい納なつ言ごん形けい控くわう大だい納なつ言ごん形けい
ま〜あ教くわう成せい成せい大だい將しやう頭とうを〜とあ〜とあ〜とあ〜とあ
ま〜り給たまふま〜りのほ〜とあ〜とあ〜とあ〜とあ

大さねとてふりねとていふりも入るは四の中
いひつらばりかきしとていふ人しくれはあり
まの句むりえきおうにたむひきありあきぬら
きくをかりうらげしとていふとていふはけち
めあふ包しとていふしはたぬ月りのり
居りもりけふまゝ人の沖じとていふ居園に
まらつたはゆつとていふしとていふあはけい
とていふしとていふしとていふしとていふし
んもそとていふしとていふしとていふしと
しとていふしとていふしとていふしとていふし
祇園もた政大臣とていふしとていふしとていふし

最勝講からしとていふしとていふしとていふし
のめとていふしとていふしとていふしとていふし
清和や東門のしとていふしとていふしとていふし
まらぬとていふしとていふしとていふしとていふし
志のつけりもとていふしとていふしとていふしと
まらぬとていふし

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
うらた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

ふくぬ家乃ゆくとあつらひしむもあじとれ
あつらひしむとあつらひしむ

けふさうえいひつらふはあつらひしむ

あつらひしむはあつらひしむ

正嘉元年此書乃法より義明門院沖をぬかむ
りせ給へし院もいふとらぬとらぬなむして沖院
法をぬかむとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬと
八十七とふとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬと
ほぐとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬと
うとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬと
事ぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬと

きぬあつらひしむとらぬとらぬとらぬとらぬと
房よ井法ひぬとらぬとらぬとらぬとらぬと
ぬか世中ぬかぬとらぬとらぬとらぬとらぬと
正嘉二年三月廿日とらぬとらぬとらぬとらぬと
あつらひしむとらぬとらぬとらぬとらぬと
いぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬと
大内内大臣左大臣大將とらぬとらぬとらぬと
とらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬと
さつらひしむとらぬとらぬとらぬとらぬと
かつらひしむとらぬとらぬとらぬとらぬと
くつらひしむとらぬとらぬとらぬとらぬと

びうたそりれきりー壇林寺といひーい
もかしく衣を念むりよりありしまはばそのあまふ
浄金剛院とのふ師堂とてをせ給ふよ道覚上人
と長老小をれく浄土宗をわく天王寺の金堂
うのまをたすひて多寶院とやたさるる川よ
のぞきてありてき反津くはたむ勝院とせ給ふは志
ひでんのゆゑに持佛と念をせまつて瑞くまひ
るやうの引をのこるふみちのうらうわの反そると橋を
と衣をけりてまへくひりーうに禁ひ給ひ
又うに多をれぬふいよてもー正元元年五月
日といかんこれむごりりよ大真院一切院とせ給ふ

給ふやーぶつおがーいさくげふまといひく志
しめさぬよ女乃持彩とくいおーいあつあつ
半一の色を院をわかぬふいりれくまふく
念のとれども地下も敬上もなぐあふぬとをり
よのうらぬその日よありく約章あり表もわか
トと約破なる大信んさうめをれうのうぬと
右右よらうりて浄土のまれかうらむよほきたふ
法念のまーいさーいさーいさーいさーいさーい
しめ日浄業のいあそひはーいさーいさーいさーい
いさーいさーいさーいさーいさーいさーいさーい
いさーいさーいさーいさーいさーいさーいさーい

それより一月廿八日春宮十一歳御誕生
し御ふはれ桓仁と云ふ世の中より
めさめゆふ事あはれと云門をあはれ
がされとよみのまれしつら御物
てよ内侍の御しり敷と云ふ
七十日ありけふと云はれ

お代々いふはめさねと七十

あまふりすと神ハ

ふくて十月廿六日おらみ
きたるあはれなるら
たれを伊波のあがあむも思ふぬ

ふきんぬる事
うもたぬ
ふるどほのの世
む十年れ
志けび
事并内侍

ふまは
しつれ

なりよりおとまん河津^{ちづ}絶あはれもまじりけ
り多ありしきこいど入して屏風^{びんぶ}よしの
り幸んよくしとのちまてさゆく流の由ま
ゆるおほせしきと杉政^{すぎまさ}あたらひの
がゆくゆりけふと貞應^{さだたけ}元年^{げんねん}に
てきこく吉乃^{よしの}みや左大臣^{さだなじん}の
右大臣^{みぎなじん}とありそいあるはくよた
そのとれたるきりくおとん流のり
て内^{うち}の^{うち}おほくはゆるりまひん
を流^{なが}流^{なが}おれ^{おれ}とそらけ小朝^{こあさ}拜^{まが}せ
れむらうくしうご流^{なが}およ又^{また}大^{おほ}流^{なが}乃^のおれ

めであくぞゆりき流^{なが}冒^{まが}はせうめい
かきめ流^{なが}の^のゆ^ゆは^はゆ^ゆは^はゆ^ゆは^はゆ^ゆ
流^{なが}とあくせあういしとんまの
うきなうり物^{もの}りうすき流^{なが}は
まのまのわん^{わん}の^のあ^あと^と人^{ひと}あ
くちり杉政^{すぎまさ}後^ごもまのり
まひぬまは^はな^なり^りて^て又^{また}大^{おほ}文^{ぶん}院^{いん}内^{うち}の^の流^{なが}
あまもかん^{かん}ち^ちり^りめ^め教^{きょう}上人^{じょうじん}あ
し流^{なが}むし^しに^にま^まの^の流^{なが}は
むし^しの^の車^{くるま}よ^よせ^せく^くみ^みや^やの^のめ^めん^ん
ら^らの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま

兼明門院のありしよりかたりし院ありし處と女
院もいふやむいふかかりけりしと云ふとま
つり流るる所をいふにありし院の此の如く
よき傳ありしとすし母を清母と云ふとま
さし流るる所と云ふにありし院の此の如く
いふにありしとすし母を清母と云ふとま
分よりいふ所をいふにありし院の此の如く
とすし母を清母と云ふとま
をいふにありしとすし母を清母と云ふとま
すの如くありし院の法親王の如く
せきをいふにありし院の法親王の如く

兼明門院よりいふにありし院の此の如く
由車もてかんまありし院の此の如く
ゆよと云ふ人教と云ふ人馬と云ふ人
りしとすし母を清母と云ふとま
いふにありし院の法親王の如く
くいふにありし院の法親王の如く
院の此の如くありし院の法親王の如く
いふにありし院の法親王の如く
の如くありし院の法親王の如く
いふにありし院の法親王の如く

あえなるといぬりぬくねと川よ
りこれきふらうもくせえます終つりぬるを
くらおれををふくうき物ふそつるや世中
やうくあかしく年号うふか二月十八日建長
よあつぬきごとかど火災つりまて女目又く
あひうらうらむらめつりこれ大納言雅親の家
つそむより火いごころて百ちちやうやまうりおむ
多しこもりふさか寛元四年六月も
あそりしき火つりしうぶのあむらな成りも
よりもあえまるとうは雅親の大納言家むらと
四方いれをけきふよあまふいしあ

いしそむらふ人いふあむらあつりしきいし
ごさむら火あよ入すきんむつり時
うふ蓮華王院の沖橋りいえはよれを小
かりんもあまやうあみちすうもまむらふ
りとりけきせまふいしめつりうふあさゆ
政及も沖く終りよまの終り二十なるの
あそり子一すかのほまきくむ終りは
不動堂ほくたうそのくは寶苑結るは
りぞめつりしうらまらま後白河院の
あそりゆふご物ふねりなりて長寛二
年供養ありし後をむらむりしゆて

年とくく雲のうらみはけくもまがひいしあに
七日はこぞりそのゆよあぢの大乗だいじやう終しゆうるあま
せ終しゆうるゆらうのけちまをぞあひふはゆきい
ら師しきいゆあぢをけちまをぞあひふはゆきい
はけがれ清涼せいりやうとやうのんけいまをぞあひふは
あるとああ寺てい別べつよまをぞあひふはゆきい
そのうもすくく神かみとやまをぞあひふはゆきい
ませ終しゆうるゆらうのけちまをぞあひふはゆきい
くも世のうらみはけく

丁亥秋及月晦日夜

中村直衛

